

取り扱うデータの大規模化や解析の高度化，ネットワーク利用の拡大や複雑さの増大に伴い，並列分散コンピューティング及びリコンフィギャラブルコンピューティングの重要性が年々高まっています．コンピューティング技術やネットワーク技術の発展に伴い，本研究分野がカバーする対象領域は年々拡大しており，学界のみならず，産業界においても重要な役割を果たすことが期待されています．11月に開催される CANDAR '21 など，関連する国際会議の発表者・参加者，関連研究に携わる方々に広く投稿を呼びかけ，本分野における最新の研究成果を集約することを目的に，最先端コンピューティング技術小特集（2022年12月号）を企画しました．本小特集では，コンピュータアーキテクチャ／リコンフィギャラブルコンピューティング，コンピュータシステムに関するソフトウェア，及び並列分散アルゴリズムやネットワークングに関する論文を広く募集します．具体的なシステムの実装に関するシステム開発論文なども歓迎致します．

1. 対象分野

- ・リコンフィギャラブルシステムとアーキテクチャ（並列プロセッサアーキテクチャ，クラスタ・グリッドシステム，ネットワークとストレージアーキテクチャ，ネットワークオンチップ，高性能インタコネクタ，FPGA，PLD，動的再構成システム，仮想ハードウェアなど）
- ・リコンフィギャラブルシステム技術（デバイス・回路，設計・検証，高位合成，低消費エネルギー・非同期・高信頼システム，設計事例）
- ・コンピュータシステムやリコンフィギャラブルシステム向けソフトウェア（オペレーティングシステム，ミドルウェア，ツール，仮想化技術，並列プログラミングモデルと言語，ウェブサービス，クラウドと分散コンピューティング，クラスタ・グリッドのスケジューリングと資源管理など）
- ・並列／分散アルゴリズムとその応用（高性能計算，IoT，機械学習，AI，画像・グラフィックス処理，データマイニングと情報検索，マルチコア・アクセラレータ利用計算，ネットワークアルゴリズム，グリーンコンピューティング，シミュレーションと可視化，スケジューリングと負荷分散，性能モデルと評価など）
- ・分散システムとネットワークング（ユビキタス計算，P2P ネットワーク，ワイヤレスネットワークとモバイル計算など）

2. 論文の執筆と取扱い

- ・通常の英文論文と同一とします．
- ・ページ数は，原則として，論文の場合は刷り上がり 8 ページ，レターの場合は刷り上がり 2 ページを標準とします．初期投稿時のレターの最大ページ数は 4 ページです．標準ページ数を超えると，掲載料が急に高くなりますので御注意下さい．詳細は Information for Authors (https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html) を御参照下さい．
- ・査読後の再提出期間（通常は 60 日）を短縮する場合があります．

3. 投稿方法

- ・Web による電子投稿のみ受け付けます．https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx より登録を行って下さい．
- ・初期投稿時に，編集可能な論文本体（TeX/Word），図，著者の写真，biography も投稿する必要があります．なお登録時には必ず“Journal/Section”で [Special-PA] Forefront Computing を選択して下さい．[Regular-ED] を決して選択しないで下さい．
- ・Web による電子投稿の際，“Copyright Transfer, Article Processing Charge Agreement, Notices from the IEICE, and Privacy Policy”に承諾して頂きます．

4. 論文投稿締切日 2021年12月13日（月） 厳守（No Extension）

5. 問合せ先

山内利宏 岡山大学
TEL [086] 251-8185, FAX [086] 251-8256
E-mail : yamauchi(at)cs.okayama-u.ac.jp

6. 小特集編集委員会

委員長 山内利宏（岡山大）
幹事 飯田全広（熊本大），宮島敬明（明治大）

委員 泉 知論 (立命館大), 伊藤靖朗 (広島大), 井上 拓 (日本 IBM), 小川周吾 (日立製作所), 北須賀輝明 (広島大), 小林諒平 (筑波大), 佐藤将也 (岡山県立大), 佐藤幸紀 (豊橋技科大), 塩谷亮太 (東京大), 芝公仁 (龍谷大), 杉木章義 (北大), 谷川一哉 (広島市立大), 中島耕太 (富士通), 中條拓伯 (東京農工大), 中原啓貴 (東工大), 藤原一毅 (NII), 本田 巧 (富士通), 八巻隼人 (電通大), 山本 寛 (立命館大)

7. 付記

- * 締切日を厳守して下さい。
- * 招待論文を含むすべての著者は、論文が採録となった場合、2022年8月頃に掲載料をお支払い頂くこととなります。2022年9月15日までに支払いが完了しない場合には、採録取り消しとなります。
- * 投稿者に非会員が含まれている場合には、この機会に入会することを勧めます。著者全員が非会員の場合、非会員掲載料が適用されます。ただし、招待論文に関してはこの限りではありません。
入会の案内はこちらを御覧下さい。(https://www.ieice.org/jpn_r/member/join.html)
- * オープン化：2017年1月号以降に掲載された電子情報通信学会英文論文誌 D のすべての論文を、J-STAGE を通じて全世界の読者へ公開しています。2020年1月号以降に掲載される論文には、電子情報通信学会の多くの論文誌で適用することができるオープンアクセスオプションを適用することができなくなります。(オープン化は、2020年1月以降も継続する予定です。) オープン化とオープンアクセスオプションに関する詳細は、“Information for Authors” (https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html) を御参照下さい。オープン化とオープンアクセスオプションに関しては、予告なく変更されることがあります。